

◎「ウクライナ支援」 News Letter (6)

2022年7月9日
ミッション・宣教の声
黒田 禎一郎

愛する皆様

主にあって、祈りご支援くださりお礼を申し上げます。21世紀のヨーロッパ大陸で、このような惨事を誰が予想したでしょうか。人類は常に平和を叫び求めつつ戦い続けてきました。ウクライナはコロナ禍で大きな経済打撃を受け、さらに今回のロシア軍侵攻による激震で多くの犠牲者と避難民を出しています。

今日もウクライナ激戦地では、学校、会社、工場、商店は閉鎖され、住民は地下防空壕に避難しています。もちろん銀行やスーパーは機能していませんから、外部の救援物資で命をつないでいるのが現実です。そのような中、キリスト教会（集会）の聖徒はどのような状況下に置かれているのでしょうか。ここに現地からの「叫び」が入りました。

- ・ウクライナ全土のキリスト教会責任者は、「ウクライナに留まり、同胞を助ける！」と決心した。国内に留まる決心した避難民で、とくに弱者・薬物依存者に援助の手を差し伸べている。すべての面で物不足が続き物価は急高騰してきたが、私たちキリスト教会の務めは、彼らに食料と救援物資を配給することである。戦争がこれ以上続かないことを望むが、最悪事態を考えなければならない。（オストロークのキリスト教会、アレキサンダー長老）
- ・神の家族の愛する子どもたち！ 非常な困難に遭遇している私たちを、祈り覚えていただきたい。私は貧しい小さな村の教会の責任者として、心からのお願いをしたい。主があなた方の心にお語りくださるなら、村では食べ物が不足している現状を覚え支援をお願いしたい。私たちはキリスト者として村民に食物を渡し、イエス・キリストの愛を現したいと願っている。（オデーサのキリスト教会責任者、アナトリー師）
- ・愛する信仰にある友よ。私たちは東ウクライナのキリスト教会と常に親密な連絡をとり、国内避難民を支援しているキリスト教会である。私たちは各州からの国内避難民の受け皿となり、最悪を考え食料を備蓄してきたが限界に達してきた。この戦争が今後どのような状態になるか皆目見当がつかない。将来的に考えるなら光はまったく見えないが、全能の神を信じている。

経済的支援を切にお願いしたい。それで食料と生活必需品を購入し、国内難民者を支援したく願っている。神はこれまでも私たちの必要を満たし、必要な力を備えてくださった。私たちは信仰を持ち、これからも祈り進んでいきたい。私たちには世界中に信仰の友がいることに、神に心からの感謝をささげている。皆様方の上にも、「神の平安がありますように」祈っています。

(カルパチアのキリスト教会の長老、ピーター兄弟)



<難民となった子どもたち>

<大型トラックで到着した救援物資>



<合同で食事をとる避難民たち>

※ この News Letter は不定期発行で、メール送信しています。
皆様のお祈りとご支援に感謝します。